

生徒指導だより「こころ」

平成29年11月2日(木)

NO.5 文責 藤本 喜士

実り多い2学期に

中体連陸上・駅伝、文化祭とこれまでの練習の成果を遺憾なく発揮する生徒の姿に力をもらう日が続いています。今後、3年生は進路決定へ、2年生は修学旅行の学習へ、1年生は先輩になる準備へ向けて頑張っていくこととなります。どの学年も共通するのは一人一人の努力と集団の団結力です。一人一人が自分自身を高めることで初めて集団は成長し、目標が高まり、質が高まり、品が身につくと思います。あと2学期も2ヶ月、どこまでステップアップしていくのか楽しみです。

私が個人、集団の成長の予兆を感じとる大きな要素は「あいさつ」です。あいさつは”未来を切り拓く力”と思っています。毎朝校門で登校してくる生徒、朝トシに励む生徒にあいさつをしていますが、遠くから元気よく挨拶する生徒もいれば、すぐ横を通っても挨拶をせずに通る生徒もいます。体調が優れないのか、その日によってするしないが異なる生徒もいます。いつも同じように挨拶する生徒とそうでない生徒、好き嫌いや信頼関係もあるのかと思いますが、5年後、10年後、社会に出た時はどうなのだろうと考える今日この頃です。皆さんはどう思われますか？



安全確保の備えを

日の出は遅く、日の入りは早くなってきました。先日帰宅途中に無灯火、蛍光板なしの自転車とすれ違い、ドキッとなりました。生徒の皆さんは大丈夫でしょうか。安全に登下校できるよう今一度確認をしてほしいです。



ホットな出来事で思い出した「涙」

先日の給食後、ある生徒が教室で自分のではない机椅子を掃除に備えて一人で移動させている場面に出会いました。周りには誰もいません。急いでいたので声をかけることができませんでしたので、この場をお借りして「心を温めてもらいました、ありがとう」。何がこの生徒を動かしたのだろう。そう考えていたら、ある新聞記事を思い出したので紹介させていただきます。

「埼玉県の鴻巣署は4日、県道に散乱していた古紙を一人で回収し

た行田市在住、県立鴻巣高校1年の湯本里咲さん(16)に感謝状を贈った。見て見ぬふりをして通り過ぎる自分を受け入れられず、後先のことを考えずに一心不乱に集めた行動は、周囲の心を揺り動かした。

自転車で通学している湯本さんは昨年12月21日夕方、鴻巣市屈巢の県道を通りがかった際、新聞紙や折り込みチラシが半径約3メートルにかけて大量に散乱しているのを目の当たりにした。一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなった」と戻って来た。

当初は古紙を自転車の前かごに積んで自宅に持ち帰ろうとしたが、収まり切れない。約500メートル離れたコンビニエンスストアへ行き、ゴミ袋を買って戻り、再び拾い集めた。現場は交通量の激しい通り。湯本さんは青信号になるたびにひたすら拾い続けた。

午後5時20分ごろ、同署に「女子高生が落とした荷物を一人で拾っている。かわいそうだから助けてほしい」と連絡が入った。署員が駆け付けると、すでにごみ袋3袋分、計10キロの古紙が回収されていた。持ち帰り方法を考えていた矢先に署員が到着。安心した湯本さんの目からは涙が流れた。

今年の1月に心の芯まで温めてもらった記事でした。「交通量の激しい所で危険だ」という意見も見られましたが、危険な場所だからこそどうにかしなければと16歳にして行動に移した湯本さん。「見て見ぬふりができない」純粋な思いに私自身はどうだろう・・・、と見つめなおすきっかけになりました。皆さんはいかがですか？



涼秋から深秋へ

11月となり、夏服から冬服へと移行しました。1年生を見ると、あんなに大きかった制服が、入学当初に比べると気持ちばかりサイズがちょうどよくなっているような気がします。今年は涼しい時期が短く、もう朝夕は10℃を下回る日もあり、寒さを感じる気候になってきました。そこで手袋、防寒着、タイツの着用期間を早め、来週より実施したいと思います。また今年度より、必要であれば登下校時のみネックウォーマーを着用するようにしました。マフラーは巻き込みによる事故防止の観点から着用しないことにしています。

毎日を元気に過ごすことができるよう、体調管理の一部として防寒着類を活用してほしいと思います。(防寒着類は華美とならないよう、白・黒・紺・茶系の色にしています。)